

# 本学創立110周年式典



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人 中原 泉  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎ 025 (267) 1500



華西口腔医学院の校章

## 四百余名が参列

本学の創立一一〇周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。中国の四川大學華西口腔医学院の周学東院長への名誉博士号授与式もあわせて行われた。昨年から発足した、卒業後五十年・二十五年創立記念式典特別参列制度(ジューブリー5025)により多数の校友が参列した。午後からは創立記念祝賀会が、近くのホテルメトロポリタンエドモントで開催された。(関連記事二面)

日本歯科大学創立一一〇周年の八十回卒の創立以来の伝統である神式によって執り行われ、式場生命歯学部富友会員など四百余名が参列した。定刻の午前十時三十分、高橋孝幸庶務部長が開式を宣した。築土神社の神職により、神事が執り行われ、中原理事長・学長が神前に進み出て、玉串を奉奠すると参列者は一礼二拍手一礼をもって同拝した。参列者を代表して、中原貴、沼部幸博、藤井一貴、湯浅太郎の各理事、近藤勝洪校友会会長がおの神前に玉串を捧げた。



創立110周年に立ち会えた喜びを語る中原泉理事長・学長



△記念品を手渡す周名誉博士(中央)、右は陳名誉客員教授  
△(左写真) 全国校友大会への参加を呼びかける近藤会長

長が開式を宣した。築土神社の神職により、神事が執り行われ、中原理事長・学長が神前に進み出て、玉串を奉奠すると参列者は一礼二拍手一礼をもって同拝した。参列者を代表して、中原貴、沼部幸博、藤井一貴、湯浅太郎の各理事、近藤勝洪校友会会長がおの神前に玉串を捧げた。撒餞、昇神を終えて神職が退場。壇上を整理したのち、中原理事長は式辞のなかで、東京の千代田区はわが国の歯科教育機関の発祥の地であると述べ、歯科界のリーダーとして活躍する卒業生たちを紹介したのち、今年度のミスユニバース日本代表に生命歯学部女子学生が選ばれたことにふれると、会場内から拍手が湧き起った。

次いで近藤勝洪校友会会長は、「日本歯科大学は今年創立一一〇周年を迎えると同時に、創立者の中原市五郎先生の生誕一五〇年にあたる。この二つの慶事を盛大にお祝いしたいということ、校友会では十月二十二日に帝国ホテルで全国校友大会を開催する。当日は記念式典、記念講演、記念祝賀会に全国から千八百名を超える会員の先生方が出席される予定である。こぞつて大学の発展をお祈りしたいと考えている。

今年の四月には、熊本地方に震度七を超える大地震が発生した。校友会では対策本部を立ち上げ、西村正美校友会副会長をお見舞いに派遣した。義援金窓口を校友会で設置し、義援金を募集しているのは是非ご協力をお願いしたい。

また本日の式典には、特別参列制度ジューブリー5025に参加されている先生が沢山おられる。卒業後五十年が五十五回卒、二十五年が八十回卒の先生方である。今日は母校の発展した姿をよく見ていただきたい。日本歯科大学は優れた先見性のある指導者のもとで発展を続けている。校友として校友は自分が学び過ごした大学とともに歩み続けることを誓いたい」と述べた。

次に名誉博士号授与式にうつる。中原学長より四川大學華西口腔医学院について紹介があり、院長の周学東先生に第十九号の名誉博士の学位記、口腔病理学主任教授の陳宇先生に名誉客員教授の称号が授与された。

学位記授与のあと、華西口腔医学院から本学に記念品が贈呈された。ここで周名誉博士が謝辞を述べ、陳先生が通訳した。次いでベストティチャー賞授与式が行われ、三年間の学生評価等



の最優秀者である附属病院矯正歯科の安藤文人准教授と、新潟生命歯学部物理学の小野裕明准教授に、学長より表彰状が贈呈された。

おわりに永年勤続者表彰が行われ、三十年勤続十二名、二十年勤続二十四名が壇上にあがり、代表者に表彰状が手渡された。表彰者を代表して、生命歯学部衛生学講座の福田雅臣教授が謝辞(後掲)を述べた。来賓として参列された名誉教授が紹介されたあと、校歌を斉唱し午前十一時四十分閉式した。

四川大學華西口腔医学院は、中国で最古の歯学部である。本学は昭和六十一年に姉妹校を提携した。今から三十一年前である。私は二〇〇〇年の創立九十周年に招待を受け、名誉教授の称号を頂戴した。その時には周学東先生が院長(歯学部)に就任して新しい病院、学部を次々に建設され、中国一の近代的な歯学部を整備されていた。平成二十四年には歴史に造詣の深い先生は、構内中国口腔医学博物館を開館され、本学新潟の医の博物館と姉妹館の調印をした。さらに平成二十六年には、本学が開

歯科医院のための

## 訪問歯科診療 6W1H

【編著】藤井一維 (日本歯科大学 新潟病院)  
【著者】日本歯科大学 新潟病院  
黒川裕臣 白野美和 吉岡裕雄  
赤泊圭太 廣澤利明 荒川いつか  
池田裕子 神田明

新刊

訪問歯科診療 6W1H

A5判/カラー/全192ページ  
本体4,300円+税

1987年、今から約30年前に在宅歯科往診ケアチームを設置した日本歯科大学 新潟病院。その豊富な知識・経験をもとに重要ポイントを実践的に解説。

発行元 Y MEDIA メディア株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-6 NREG 本郷三丁目ビル8F TEL 03-5684-2510 (代)

三十年の思い出は、就職して五年後のトウルク大学への留学である。当初は一年間の予定だったが、主任教授がトウルク大学の歯学部長あてに、留学中の私の夢を叶えてもらえるならば、あと半年間面倒をみてほしい、と手紙を送ってくれた。この夢とは何なのか、三十年間奉職できたのも一つの夢だったのかもしれない。今日表彰を受けた者たちの思っているすべての夢は、日本歯科大学のさらなる発展である。私たちはそれを夢見て、これからも職務に努めたい。(表彰者代表・福田雅臣)

発した患者ロボットシミュロイド二台を購入され、私と羽村歯学部部長は披露式に参列した。このように華西口腔医学院と本学は、三十年にわたって交流を続け固い友情をもつて結ばれてきた。陳宇先生は日本に十年間留学されて、日本語は日本人より上手だ。年は違いますが、私の大の仲良しである。

三十年の中で私にとって一番の思い出は、就職して五年後のトウルク大学への留学である。当初は一年間の予定だったが、主任教授がトウルク大学の歯学部長あてに、留学中の私の夢を叶えてもらえるならば、あと半年間面倒をみてほしい、と手紙を送ってくれた。この夢とは何なのか、三十年間奉職できたのも一つの夢だったのかもしれない。今日表彰を受けた者たちの思っているすべての夢は、日本歯科大学のさらなる発展である。私たちはそれを夢見て、これからも職務に努めたい。(表彰者代表・福田雅臣)

叶えられた夢  
三十年と言うと私の人生の半分になる。学生のときから四十年間飯田橋に通っているが、富士見町界隈と日本歯科大学は大きく発展し変化した。早稲田通りを見つめ、私たちを見守る中原市五郎先生の銅像と駅前の体育館のほかは、すべて新しくなった。



中原泉理事長・学長式辞

☆歯科医学学校発祥の地 日本歯科大学は本年創立一〇周年を迎えた。教職員と校友、そしてジュビリー50、ジュビリー25の先生方と一緒に、一〇周年記念式典に立ち会えたことを大変喜んでい

創立者の中原市五郎先生は、明治四十年七月二日に東京市麴町区大手町一丁目一番地に共立歯科医学学校を開校した。同年十月六日に神田区雉子町三十四番地に移転したあと、明治四十二年六月一日に麴町区富士見町六丁目三番地に本拠地を定め、校名を日本歯科医学学校と改めた。この日が本学の創立記念日となった。

このように中原市五郎先生は学校の所在地として選んだのは、いずれも皇居の内濠と外濠の間の地の利だった。麴町区から改称された千代田区は、わが国歯科学校の発祥の地となった。

文科省は近年、大学認証評価として大学から生み出される結果、アウトプットに止まらず、その

において歯科医療の担い手として、患者福祉に尽力している。ためらわずに申し上げると、このうち次の先生方が本年六月現在、歯科界のリーダーとして要職にある。

第五十八回卒、8020 推進財団理事長 堀憲郎 先生・六十八回卒、参議院議員 西村正美先生・七十八回卒、加えて本学内科学の三ツ林裕巳教授は衆議院議員、厚生労働大臣政務官を務めている。

図らずも本学にそろうたこの七冠は、本学から有為な人材の輩出を示しており、これこそ本学のアウトカムの何よりの証明と言えるだろう。

☆学閥から人材の時代に 見方を変えれば、この日歯大一色の様相は、明治以来続いた学閥の時代が終わったことを意味している。学閥の時代であれば偶々であったも、一校がトップを独占するということはあり得ないからだ。近時本学出身の逸材が各所で推されれば、要職に就いている。今や出身校に関わりなく、人材の時代になったと言つてよいと思う。

ともかく私は本学創立一〇周年に立ち会えたことを大きな喜びとし、本学を継承されてきた先人の方々に衷心より感謝を捧げる。

なお終りに慎みつつも今年の本学のトピックをもう一つ挙げれば、生命歯学部的女子学生が2016年ミス・ユニバースの日本代表に選ばれたことである。

結果が社会に及ぼす影響力という成果「アウトカム」を求めている。すなわち卒業生が社会においていかに活動しているか、そういうアウトカム評価を目指しているようだ。

日本で優れた歯科大学

日本歯科大学名誉博士 周学東



日本歯科大学と華西口腔医学院は、すでに三十年の歴史をもつ姉妹校として交流を続けている。私は二十二年前に華西口腔医学院の院長に就任し、貴学の中原理事長・学長とともに友好の発展に大きな努力をした。

式典を挙げる。謙遜せずには、両校とも世界で最も卓越した歯科大学なのだ。

華西口腔医学院は、カナダの歯科医師リオンゼイ(林則)により一九〇七年、四川省成都に設立された。中国で最も歴史がある歯科医学機関である。二〇一一年に華西医科大学から四川大学に組織変更になったとき、医学のシンボルである医神アスクレピオスの蛇杖とDentalのDの字をモチーフとした現在の校章を制定した。

午後一時より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント「悠久」において、創立記念式典祝賀会が開催された。

創立記念式典の参列者たち 6月1日・富士見ホール

は、「昨年から本学の記念祝賀会と、校友会主催のジュビリー5025」ということではじめた。昨年は五十四回と七十九回、今年は五十五回と八十回の卒業生の方々にある。五十五回卒の先生

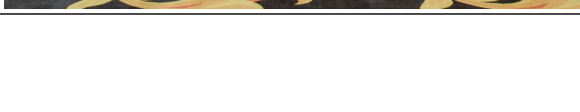
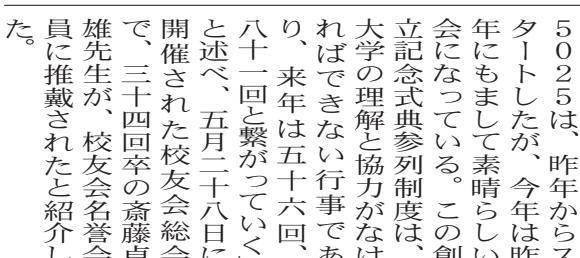
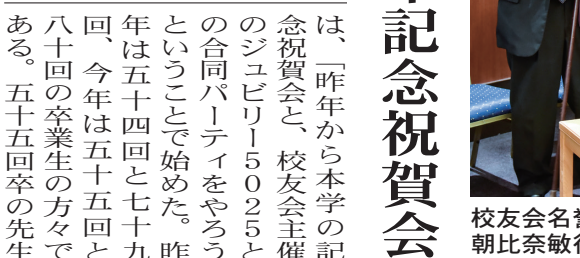
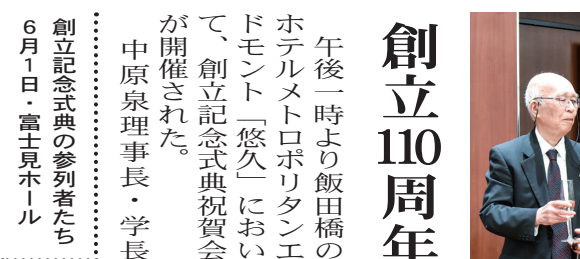
方、私より一年下なので全部とは言わないが、大よそ顔と名前はわかる。本日は創立記念祝賀会というよりは、ジュビリーの先生方のパーティーなので、大いに旧交を温めていただきたい」と挨拶した。

つづいて乾杯の発声に立った近藤勝洪校友会会長は、「ジュビリー5025は、昨年からスタートしたが、今年は昨年にもまして素晴らしい会になっている。この創立記念式典参列制度は、大学の理解と協力がなければできない行事であり、来年は五十六回、八十一回と繋がっていく」と述べ、五月二十八日に開催された校友会総会で、三十四回卒の齋藤貞雄先生が、校友会名誉会員に推戴されたと紹介した。

参議院議員・西村正美校友会副会長

厚労大臣政務官・三ツ林裕巳教授

祝 創立110周年 ジュビリー5025





# 創立者の偉業を語る……

## 5月に東京と新潟で記念講演会

学内校友会(志賀博)会が、五月中旬に歯学部で開催された。生命歯学立者中原市五郎先生(生誕一五〇年記念特別講演)時三十分より富士見ホールにおいて、新潟生命歯学部では午後五時三十分より講堂において、下記の演題で講演が行われ、多くの教職員、学生、本学関係者が聴講した。



昭和62年夏・東京富士見(『懐かしの旧附属病院』より)

### 学生や教職員の登下校を見守る中原市五郎先生像

六月一日の本学創立記念日、新潟生命歯学部では、有志によりグラウンドと校庭の除草、ゴミの清掃が行われ、時から新潟キャンパスの浜浦

### 新潟 教職員ボランティアが校庭を清掃



軍手やビニール袋を用意して、校庭を清掃



た。清掃ボランティアとして参加したのは、教職員と学生をあわせ約一五〇名。午前十時から新潟キャンパスの浜浦小学校側のグラウンドと構内の職員駐車場、体育館や四・五号館、八号館、講堂裏など、校庭の清掃作業を行った。

- 青柳裕易 校友会副会長
- 中原泉 理事長・学長
- 藤井重壽 校友会副会長
- 志賀博 学内校友会会長

- 青柳裕易 校友会副会長
- 小島静二 伝記編集委員会副委員長

- 1) 生い立ち・学校歯科
- 2) 創立者銅像除幕
- 3) 研究者としての業績
- 4) 日本養道 確立
- 5) 歯科の業権確立
- ① 静脈注射と軍陣歯科
- ② 死亡診断書

中原泉学長は講演で、東京と新潟に建立された中原市五郎先生の銅像除幕式のエピソードについて語った。両会場では、一九五三年(昭和二十八)三月に挙行された、中原市五郎先生の十三回忌法要と銅像除幕式、記念学会を収録した動画が上映された。これは東京港区の石川行男先生(三十五回卒)が撮影した六十三年前の貴重

な映像で、医の博物館に保管されていた十六ミリフィルム映像をDVDに複製したもの。カメラは旧附属病院の屋上から、戦後八年目の飯田橋の遠景を映し出す。早稲田通りを行きかう人たちが、大学の正面入口にはテントが張られ、参会者たちを迎える。受付に溢れる人の列。記帳をすませ談笑する顔。場面は一転して旧本館講堂での法要に。中原貴名

川畑真由美(校友会・歯学会) 春原正隆(解剖学I) 佐伯周子(生理学) 佐藤かおり(病理学) 高橋幸裕(微生物学) 柵木寿男(接着歯科学) 生澤伸幸(庶務部) 中島淑絵(用度管理) 梅津系由子(小児歯科) 中山和治(病院事務部) 岩田貴子(歯科衛生士室) 佐藤義英(生理学) 岡田康男(病理学) 田中彰(口腔外科学) 橋本和泉(庶務部) 二宮一智(総合診療科)

二〇一二年に日本歯科大学校友会では特別委員会として「創立者伝記編集委員会」を設置し、昨年二〇一四年の六月、「考証 中原市五郎史伝」を刊行した。同書は本篇二〇ページ、資料篇九十六ページで、一次資料を用いた。友記は、友記の生きた時代と歯科界を活写している。国立公文書館や東京都

とは異なる中原市五郎像を多面的に浮かびあがらせ、限定出版のため、本書と各界の関与者に配付したほか、希望者には有償頒布した。が、今までの歯科の歴史を塗り替える「史伝」として高い評価をうけている。

中原市五郎先生は、『デンタルコスモス』誌に、口蓋皺襞に関する論文や、歯科医師の死亡診断書作成問題について投稿しているが、これは今回の伝記編纂過程において初めて明らかにされた。上顎義歯床にパライフィンワックスによって口蓋皺襞を付与したという論考は、一八九三年(明治二十六年)のデンタルコスモス誌に掲載され、日本人としては初めて同誌への論文投稿となった。

●：昭和二十八年(一九五三)三月発行の本紙第四十号は、「創立者の徳を偲ぶ 盛んなる追憶の調べ」と題し、六十三年前の中原市五郎先生十三回忌法要や銅像除幕式などを報じた。法要は三月二十一日、また十三回忌法要を記念してA5判の小冊子「中原市五郎先生略伝」が刊行配布されたこと、昭和六年にパリの第八回万国歯科大学大会(FDI)に、創立者が出席したときの記録映画が上映されたとの記事が掲載されている。

●：昭和二十八年(一九五三)三月発行の本紙第四十号は、「創立者の徳を偲ぶ 盛んなる追憶の調べ」と題し、六十三年前の中原市五郎先生十三回忌法要や銅像除幕式などを報じた。法要は三月二十一日、また十三回忌法要を記念してA5判の小冊子「中原市五郎先生略伝」が刊行配布されたこと、昭和六年にパリの第八回万国歯科大学大会(FDI)に、創立者が出席したときの記録映画が上映されたとの記事が掲載されている。

- ……永年勤続者……
- ☆三十年勤続表彰
  - 松岡孝典(生物学)
  - 福田雅臣(衛生学)
  - 宮坂孝弘(口腔外科学)
  - 北田加代美(内科学)
  - 横澤 茂(総合診療科3)
  - 石田鉄光(総合診療科4)
  - 杉浦幹則(歯科技工室)
  - 内藤 明(歯科技工室)
  - 麻見千登世(歯科衛生士室)
  - (新潟生命歯学部)
  - 種村 潔(化学)
  - 福井佳代子(薬理学)
  - (新潟病院)
  - 榎 佳美(歯科衛生科)
  - ☆二十年勤続表彰
  - (学校法人)

- 海老原隆(総合診療科)
- 若木 卓(総合診療科)
- 戸谷収二(口腔外科)
- 大橋 誠(歯科麻酔・全身管理)
- 本間いずみ(看護科)
- 渡部 泉(歯科衛生科)
- 梅澤 幸(看護科)
- (東京短期大学)
- 須田真理(歯科衛生学)

- ：令和二十八年(一九五三)三月発行の本紙第四十号は、「創立者の徳を偲ぶ 盛んなる追憶の調べ」と題し、六十三年前の中原市五郎先生十三回忌法要や銅像除幕式などを報じた。法要は三月二十一日、また十三回忌法要を記念してA5判の小冊子「中原市五郎先生略伝」が刊行配布されたこと、昭和六年にパリの第八回万国歯科大学大会(FDI)に、創立者が出席したときの記録映画が上映されたとの記事が掲載されている。



# ニュースの現場から / 超高齢社会を生きる

## 新潟で創立110周年記念市民公開講座



タイムリーな講演に聞き入る聴講者たち

本学創立一一〇周年を記念し、七月三十日に市民公開講座が新潟生命歯学部講堂で開催された。第一部は「ニュースの現場から」と題して、NHK報道局長主幹で、「ニュースウオッチ9」

のメインキャスターを務めていた大越健介氏。新潟でも三十度を越す炎暑にもかかわらず、定員四〇〇人の講堂は補助席が出るほど盛況だった。大越氏は県立新潟高等学校の出身で、高校時

代や東京大学在学中には野球部のエースとして活躍した。本学医科病院長の大越章吾教授（内科学）の実弟である。講演ではテレビでお馴染みの語り口に、辛口のコメントを交えて国内外の状況

や取材での体験談等を語り、会場を埋め尽くした市民の共感を得た。第二部は「超高齢社会を生きる」をテーマに、二人の演者が講演した。厚生労働省の二〇二二年の推計によれば、認知

症高齢者は、全国で約四六二万人、軽度認知障害、いわゆる予備軍は約四〇〇万人で、六十五歳以上の高齢者人口の四人に一人が認知症、またはその予備軍となる。超高齢社会の到来に伴い、認知症と歯科医療について、理解してもらえよう。新潟生命歯学部公開講座委員会が企画した。

講演後、各演者には、日本歯科大学からの感謝状と記念品が、関本恒夫新潟生命歯学部長より手渡された。

「口腔ケア」は「歯磨き」ではないんです！お口の健康長寿をみざして今からできること。日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科 白野美和准教授 道川教授は、歯周病と認知症の関連性をはじめ、認知症の背景疾患として一番多いアルツハイ

マリー病の正しい理解、治療開発の最前線などについて医科の立場から解説した。

次いで、訪問歯科診療の現場では、どのように認知症患者と向き合っているのか。第一線で活躍する白野准教授が、超高齢社会での訪問歯科診療について解説した。

（生命歯学部解剖学第一講座）の島田和幸先生が、図書館の歯学古書を紹介している。

島田先生は鹿児島大学名誉教授で、日本医史学会会員。明治期の翻訳医書や歯学書、その原本の書誌などに造詣が深い。HPでは、地下二階の貴重書の書架に保存されている稀覯本の、FoxやAngle、戦前の本学教授陣の著書について詳細に解説されている。



道川誠教授  
「口腔ケア」は「歯磨き」ではないんです！お口の健康長寿をみざして今からできること。日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科 白野美和准教授 道川教授は、歯周病と認知症の関連性をはじめ、認知症の背景疾患として一番多いアルツハイ

マリー病の正しい理解、治療開発の最前線などについて医科の立場から解説した。

次いで、訪問歯科診療の現場では、どのように認知症患者と向き合っているのか。第一線で活躍する白野准教授が、超高齢社会での訪問歯科診療について解説した。

講演後、各演者には、日本歯科大学からの感謝状と記念品が、関本恒夫新潟生命歯学部長より手渡された。

（生命歯学部解剖学第一講座）の島田和幸先生が、図書館の歯学古書を紹介している。

島田先生は鹿児島大学名誉教授で、日本医史学会会員。明治期の翻訳医書や歯学書、その原本の書誌などに造詣が深い。HPでは、地下二階の貴重書の書架に保存されている稀覯本の、FoxやAngle、戦前の本学教授陣の著書について詳細に解説されている。

（生命歯学部解剖学第一講座）の島田和幸先生が、図書館の歯学古書を紹介している。

島田先生は鹿児島大学名誉教授で、日本医史学会会員。明治期の翻訳医書や歯学書、その原本の書誌などに造詣が深い。HPでは、地下二階の貴重書の書架に保存されている稀覯本の、FoxやAngle、戦前の本学教授陣の著書について詳細に解説されている。

### ベストティーチャー賞

平成二十七年年度ベストティーチャー賞に、安藤文人准教授（附属病院矯正歯科）と小野裕明准教授（新潟生命歯学部物理学）が受賞し、六月一日の創立記念式典で表彰

された。ベストティーチャー賞は、学生評価の合計点および学生アンケートの最優秀者で、両学部のベストレクチャー賞の三年間の受賞者から一名ずつ選ばれる。

平成27年度  
ベストレクチャー賞  
【生命歯学部】

〇1位  
解剖学第一講座講師  
三輪容子

〇2位  
歯科補綴学第二講座教授  
渡邊文彦

〇3位  
物理学准教授  
小野裕明

〇1位  
【新潟生命歯学部】  
青柳有祐

〇2位  
解剖学第二講座講師  
熊倉雅彦

〇3位  
歯科補綴学第二講座教授  
渡邊文彦

〇3位  
物理学准教授  
小野裕明

上田准教授（新潟病院国際大会でポスター賞）

新潟病院口腔インプラント科の上田一彦准教授は、六月上旬にポランド南部の古都クラクフで開催された6th International CAMLOG Congress で、優秀ポスター賞を受賞した。

受賞演題は「The effect of abutment materials on peri-implant soft and hard tissue level for three years」で、アバットメント材料がインプラント周囲組織に与える影響について発表した。

優秀ポスター賞表彰状を手にする上田准教授（前列左から二人目）と共同演者たち



優秀ポスター賞表彰状を手にする上田准教授（前列左から二人目）と共同演者たち



優秀ポスター賞表彰状を手にする上田准教授（前列左から二人目）と共同演者たち

優秀ポスター賞表彰状を手にする上田准教授（前列左から二人目）と共同演者たち



ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

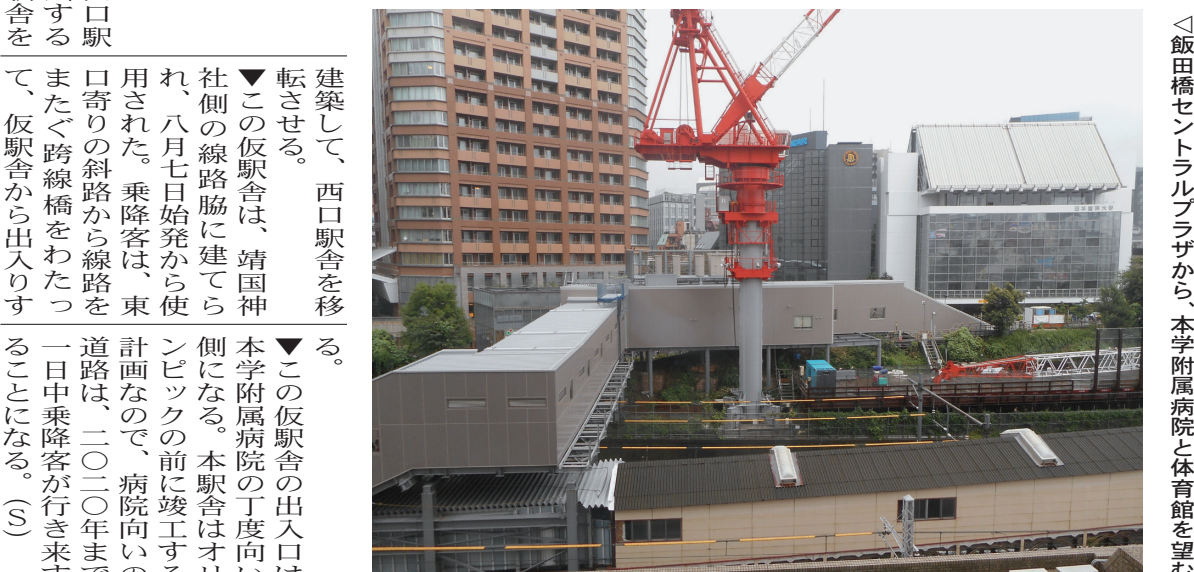
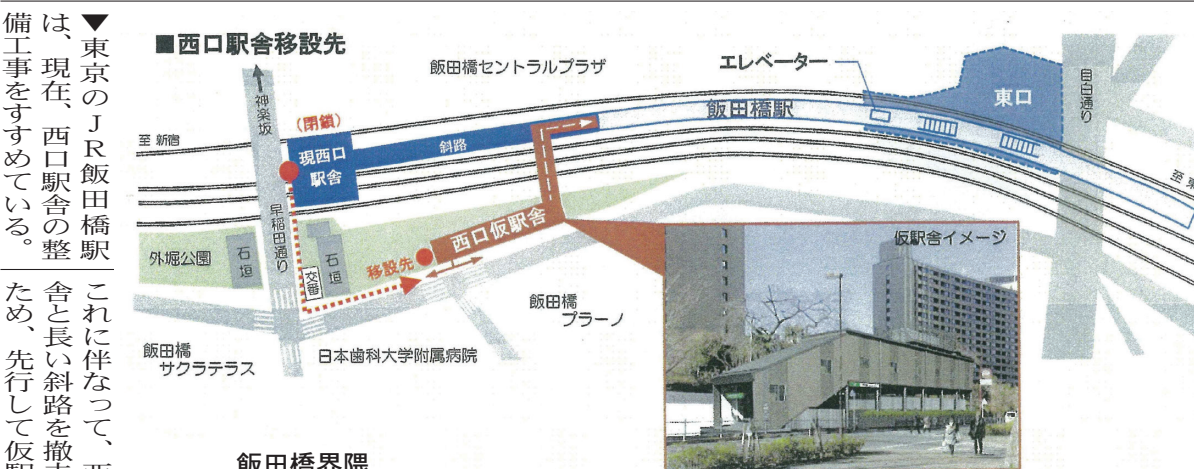
ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）

ベストティーチャー賞の表彰状を授与される安藤准教授（上）と小野准教授（下）



東京・図書館で企画展示  
HPで所蔵貴重書を公開

生命歯学部図書館の一階では、毎月テーマを決めて所蔵図書を展示している。

六月には中原市五郎先生生誕一五〇年記念特別展示として、先生の著作物や伝記、関連資料など約二十点を一階カウンスター脇に企画展示した。

また同館ホームページには、「日本歯科大学図書館所蔵書より」と題して、本学客員教授

（生命歯学部解剖学第一講座）の島田和幸先生が、図書館の歯学古書を紹介している。

島田先生は鹿児島大学名誉教授で、日本医史学会会員。明治期の翻訳医書や歯学書、その原本の書誌などに造詣が深い。HPでは、地下二階の貴重書の書架に保存されている稀覯本の、FoxやAngle、戦前の本学教授陣の著書について詳細に解説されている。